

## 乳幼児に多く見られる感染症

病名	病原体	潜伏期間	侵入経路	登園のめやす	主要症状	備考	予防接種
麻疹(はしか)	麻疹ウイルス	7～18日	空気感染	解熱後3日を経過してから	発疹・発熱2～4日前にコプリック斑(口内炎と似ている) 発疹・発熱高熱	終生免疫・感染力が強い	有
風疹	風疹ウイルス	14～23日	飛沫、母児感染	発疹が消失してから	発熱、発疹、リンパ節腫脹	発熱はないことも多い。妊婦は要注意。終生免疫。	有
水痘(みずぼうそう) 帯状疱疹	水痘、帯状疱疹ウイルス	10～21日	空気感染	全ての発疹が痂皮化する(かさぶたになる)まで	発疹は体幹から全身に、頭髪部や口腔内にも出現。紅斑から丘疹、水泡、痂皮の順に変化。発疹はかゆみがつよい。	感染力強く、集団感染おこしやすい。 接触後72時間以内にワクチンを接種することで予防、症状の軽減が期待できる。 妊婦は要注意。	有
流行性耳下腺炎 (おたふく風邪)	ムンプスウイルス	12～25日	飛沫感染	耳下腺、顎下線、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで	発熱、片側ないし両側の唾液腺の疼痛性主張(耳下腺が最も多いが顎下線もある) 乳児や年少児は感染しても症状が現れないことがある	集団発生を起こす。 合併症として無菌性髄膜炎、難聴、急性脳炎	有
インフルエンザ	インフルエンザウイルス ABC型	1～4日	飛沫	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後幼児は3日を経過してから	突然の高熱、全身倦怠感、関節痛、筋肉痛、頭痛、咽頭痛、鼻汁、咳など	合併症として肺炎、中耳炎、熱性けいれん、脳症を併発する可能世あり	有
咽頭結膜炎 (プール熱)	アデノウイルス3・4・7・11型	2～14日	飛沫 プールでの目の結膜からの感染もある	主要症状が消失して2日を経過した後	39℃前後の発熱、咽頭炎、頭痛、食欲不振が3～7日続く。 結膜炎(結膜充血)、涙が多くなる、まぶしがる、目やに	タオルの共用は避ける	
百日咳	百日咳菌	5～21日	鼻咽頭や気道からの分泌物による飛沫・接触	特有な咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまで	感冒様症状からはじまり、次第に咳が強くなり、1～2周で特有な咳発作(コンコンと咳込んだ後にヒューヒューという笛を拭くような音を立てて息を吸う)	肺炎・髄膜炎に注意 咳は夜間悪化する。	有
結核	結核菌	2年以内	空気感染	医師により感染の恐れがなくなると認められてから	発熱、咳、呼吸困難、チアノーゼ		有
流行性角結膜炎 (はやり目)	アデノウイルス8, 19, 37型	2～14日	接触・飛沫感染	医師により感染の恐れがなくなると認められてから(結膜炎の症状が消失してから)	流涙、結膜充血、目脂、耳前リンパ節の腫脹と圧痛	角膜に傷が残ると後遺症として視力障害を残す可能性がある	
腸管出血性大腸菌	腸管出血性大腸菌 (O157,026、O111)	10時間～8日	経口感染	感染の恐れがないと認められた後	激しい腹痛、頻回の水様便、さらに血便。発熱は軽度。		
ウイルス性胃腸炎	ロタ、アデノウイルス等	ロタ1～3日	経口感染	下痢・嘔吐が消失したのち、普段の食事がとれるようになったら	嘔吐。酸味の強い白色水様便	脱水に注意	
	ノロウイルス	12～48時間	経口感染	下痢・嘔吐が消失した後	嘔吐、下痢、腹痛、発熱。通常3日以内に回復する。 逆性石鹼やアルコール消毒の効果なし。	脱水に注意(尿が出ているか確認する事)	
溶連菌感染症	A群溶血性レンサ球菌	2～10日	飛沫感染	適切な抗菌薬による治療開始後24時間以降	上気道感染では突然の発熱、咽頭痛を発症。しばしば嘔吐を伴う。時に発疹。	感染後数週間してリウマチ熱や急性糸球体腎炎を合併することがある	
マイコプラズマ肺炎	マイコプラズマ	1～4週	飛沫感染	症状が安定した後	咳、発熱、頭痛などの風邪症状がゆっくりと進行し、特に夜は徐々に激しくなる。		
手足口病	コクサッキーウイルスA16,A6,A10型 エンテロウイルス71型	3～6日	経口感染	全身状態が安定した後	水泡性の発疹が口腔粘膜および四肢末端(手掌、足底、足背)に現れる。口内炎がひどくて食事がとれないこともある。	刺激の少ない食事を与える	
伝染性紅斑 (りんごほっぺ病)	ヒトパルボウイルス B19型	4～21日	飛沫	全身状態が安定した後	軽い風邪症状を示した後、頬が赤くなったり手足に網目状の紅斑が出現。	妊婦要注意	
伝染性膿痂疹	黄色ブドウ球菌 A群溶血性連鎖球菌	2～10日	接触	皮疹が乾燥しているか、湿潤部位が被膜できる程度の物であること	湿疹や虫刺され痕をかきむしった部に細菌感染を起こし、びらんや水疱病変を形成。搔痒感を伴う。	アトピー性皮膚炎がある場合重症化しやすい	
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルスA群	3～6日	経口感染	全身状態が安定した後	突然の高熱(1～3日続く)、咽頭痛、口蓋付近に水泡疹や潰瘍形成	熱性けいれん、脱水症に注意	
RSウイルス感染症	RSウイルス	2～8日	接触感染	症状が安定した後	発熱、鼻汁、咳嗽、喘鳴、呼吸困難	生後6ヶ月未満児は重症化しやすい	

○ 感染する病気にかかった場合、「登園願い」の書類を提出したうえで登園して下さい。上記の表にない感染症でも、医師の診断が出た場合は、届が必要になります。

○ 感染症にかかった場合、保育は受けられません。お仕事の都合上、お休みが取りづらい方は、病後児保育の登録をお勧めします。(済生会こどもクリニック)  
詳しい資料をご希望の方は、職員までお尋ね下さい。